

# 琉球大学学術リポジトリ

## プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞して

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2022-05-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉村, 裕美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24564/0002017935">https://doi.org/10.24564/0002017935</a>

# プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞して

吉村 裕美  
琉球大学人文社会学部

## 1 はじめに

2019年度プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーの受賞対象となった、共通教育（人文）の「日本語研究入門」について、簡単に報告する。

まず、思いがけず高い評価をいただいたことに、心からお礼を申し上げたい。本授業は、2019年4月に琉球大学に着任した直後の授業であり、自己評価としては、満足できる授業実践ではなかったが、この授業に参加してくれた学生たちに心からの感謝を伝えたい。

## 2 授業概要

本授業の概略を最初に整理しておく。

この授業は、人文社会学部琉球アジア文化学科が提供している科目で、「日本語学」の入り口を、「日本語の表現」をキーワードに紹介するものである。

体系的な学習ではなく、普段何気なく使用している「日本語」の中に潜むさまざまな特性や規則性について、「気づき」「興味を持ち」「集め」「分けて」「説明する」という活動を行っている。

授業方法は、基本的に講義形式ではあるが、授業中にグループワークやバズセッションを盛り込み、いい意味で「教室が常にざわざわしている」ように運用した。

最終的には、「これまで何とも思わなかった日本語が気になって、日常的にチェックしてしまう悲しい自分」になることを目指している授業である。

授業で扱ったテーマは、以下の通りである。このテーマは、多聞靖容編『ケーススタディ 日本語の表現』おうふう 2005年で扱われているテーマからいくつかを選択したものである。

文字、表記、振り仮名、句読点、語種・品詞、命名・造語、オノマトペ、位相語、指示表現、引用表現、待遇表現、隠喩・換喩・提喩、ことわざ・慣用句

なお、評価については、以下のように行った。

- 1) 学期末レポート (50点)
- 2) 授業中に課した課題の提出状況および内容 (30点)
- 3) リフレクション・シートへの記入内容 (20点)

## 3 授業運営の実際

授業を運営するうえで、自分なりに工夫をした点について、いくつかとりあげておく。

### 3.1 webclassの活用

着任当初、前任校で使っていたような教育システムの存在がすぐには把握できず、使い始めが少し遅れたが、必要なプリント類は、あらかじめ、webclassにアップして、予習に使えるようにしていた。また授業中にデバイスでそれらを見ることも許可した。

### 3.2 事前学習（予習課題）

毎時間、次の学習内容に関連する簡単な予習課題が課される。主に、次の内容に係る言語事実を集める課題。内容に興味を持ち、主体的に取り組んでもらうこと、また、身近なところに潜む日本語の特性に気づいてもらうことを目的にしている

提出用に「予習報告用紙」を用意して、統一した規格にしている（webclassからダウンロード）。これは採点にかかる手間をかなり軽減してくれる。

（例）第4回「振り仮名」に向けた予習課題（第3回の授業の最後に提示）

単に読みを表しているのではないおもしろい振り仮名の例を見つけてくる

ヒント 歌詞カードなどによく見られる

集めた資料を元に、次の時間のどこかでグループワークをしてもらい、提出。当該授業の予習報告用紙は返却済みで、残ったものも処分したため、後期の「日本語のしくみ」で返却をした際に欠席した学生のものをも参考に示す（図1）。

**予習報告用紙**

開講年度（2019）年度 授業名 日本語のはたらき	
（    ） 学部（    ） 学科（2）年	
学籍番号	ふりがな 氏名
課題が出た日（12）月（17）日	
課題内容メモ グラフの「各語の公理（協調の原理はと叫びあっている）」を調べる	
調べた内容（★出典明記） ※書き込んでもよいしコピーを添付してもよい（貼付またはホッチキス止め） 協調の原理 「量の公理 (Quantity): 適切な量の情報を提供せよ。多すぎても少なすぎてもいけない」 「質の公理 (Quality): 真であると断言していることと云え。偽であるとわかれていることと云ってはいけない」 「関連性の公理 (Relation): 関係の無いことと云ってはいけない」 「様式の公理 (Manner): 不明な表現や曖昧なことはいけない」 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachmem/265.pdf">www.toyo.ac.jp/uploaded/attachmem/265.pdf</a> 1/23 ・ <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/jpsj/1981/34/2/34-2-101-1.pdf">https://www.jstage.jst.go.jp/article/jpsj/1981/34/2/34-2-101-1.pdf</a> 4/4 (2014)	
次の授業での情報交換でおもしろかったこと／考えたこと 余話を持ち出す。4つの公理が必要であり、これがないと破綻してしまうということになりました。しかし、ときには公理が意図的に無視される場合もあるため、話し手の公理よりも、聞き手の公理と考えられるのではないかと感じました。	

4つの公理が1つ1つはたき  
しめし  
とときに公理が意図的に無視される場合もあるため  
聞き手の公理

図1 予習報告用紙の例

### 3.3 バズセッション

授業中に、「近所の人と話し合ってみて」という軽い話し合いを何度も入れる。この講義は、じっと座って前を向いているのがよい受講態度ではなく、積極的に授業内容に反応してもらうことを推奨している。慣れてくると、いちいち指示をしなくても、教員が問いかけると、自然に近くの学生と話し合うようになってくる。

### 3.4 リフレクション・シート

これは、15回分の記入欄があるA4両面印刷の学習カルテのようなものである。当該授業のリフレクション・シートはすでに処分してしまったため、参考として、後期の「日本語のしくみ」で使用したものを挙げておく（表面のみ）（図2）。

このシートを用いるメリットとしては、学習の記録が明らかになるだけでなく、「何回休みましたか？」という質問がなくなること、また、このシートの受け渡しの関係で、授業中に立ち歩く必要が出てくることで、リフレッシュの時間ができると、が挙げられる。

リフレクションの記録  
( 2019 ) 年度 授業名 ( 日本語のはたらき )

学籍番号	<input type="text"/>	ふりがな 氏 名	<input type="text"/>
学部学科	<input type="text"/>	学年	1 年生

↑上の黒枠内は黒ボールペンで記入 以下は鉛筆による記入 集中度を◎○△×で!

月/日	今日のキーワード	今日の授業を聞いてあなたが考えたこと	集中度
10/1	意識したこと ない日本語の難し	普段、あまりというが全然意識したことがないところを指すのめんどくさいと難しく? ちゃんと答えられなかった。日本語は母語でいけど考えて使うと難しいと思った。	◎
10/8	言葉の男女差	普段の生活で意識したことないけど、言われながら「あ、確かに」と思う言葉の男女差がいくつもあった。それを知らず探してやるのが楽しかった。男女差の他に年代差もあるのかもしれない。	◎
10/29	幼児語 育児語	幼児語にこんなはげ山の分類があることに気づきました。私は育児語や幼児語は子供のコミュニケーションにおいて大切だと思うので、使うことに反対はあませんが、ベビーサインは、言語ができてからのほうが役に立つかな? と思いました。身振に幼児語は使わないで使おうかな?	◎
11/5	シヤ-ゴン	初めてシヤ-ゴンという言葉を聞きました。じつは小説を読んでシヤ-ゴンを探検作業で使ったことがあったので全然おぼろげに思い出したら、自分のところにあまりなかったことに気づきました。調べてシヤ-ゴンは「見つけた」	◎
11/12	若者とは?	普段何気なく使っている言葉を分析するのはとても難しいなあと思いました。最後に「フンチン」の意味について話し合ったときにこんなに面白い意味(もしくは真逆の意味)が使われている言葉があることに気づきました。	◎
11/19	方言のイX-ジ	沖縄の方言を私はあまり使わないのと、最近で方言を使うのがイヤと聞いたときに、あまりいいイヤ-ジがなかった。でも、地域によってイX-ジは異なる。このところのイX-ジはあつちの方言と聞いた。	◎
11/26	兼と西の方言	方言の対立をいろいろ文字にして見ると思っていたよりもはきり違いがあつちあつちだと思いました。自分の地域の方言は、はなれ方言を探るのはおもしろい。自分の地域の方言は、おもしろい。自分の地域の方言は、おもしろい。自分の地域の方言は、おもしろい。	◎

図2 リフレクション・シートの例

### 3.5 最終レポートと相互評価

15回目の授業では、最終レポートを持ち寄り、相互評価（3名から）を行った。レポートの課題内容は、以下の通り（第10回の授業で予告を行った）。

○授業中に扱った内容のなかから一つを選び、さらに詳しく調べて報告しなさい。

以下の2つの条件をすべて守ること。

- 1) 学術的な（信頼のおける）参考文献を最低1本は参照し、参考文献としてレポート末尾に、明示すること。CiNiiなどで論文を見ることはよいが、HPを参考文献とすることは不可。
- 2) 実例を自分の手で集めて分析すること。すでにある論文から実例をとってくることは不可。

この相互評価は返却のときに受け取りに来なかった学生があり、当該授業のものが残っていたので、それを参考までに示す（図3）。

日本語研究入門 レポート相互評価

レポート作成者 ( ) 学部 ( ) 学科 ( )  
 学籍番号 ( ) 氏名 ( )  
 レポートのタイトル  
 WANIMAの歌詞のら見る人を誘きつける指示語表現について

	テーマ設定について	参考文献について	集めた実例について
A	独創的で興味深い	適切で参考になるよい文献だ	おもしろい量も豊富だ
B	おもしろい	テーマにそった文献だ	これくらいあれば充分か
C	ありきたりである	もう少し探せばのでは？	もう少し探せばのでは？

評価者氏名 A~C  
↓ ↓

A	テーマ設定について	A	論の展開や説得力など気づいたこと（記述式） あえて指示表現をい挙げて、聞き手の解釈の幅が広がるということが、この4行のWANIMAの歌詞を例に挙げた分析からよく伝わった。
	参考文献について	B	
	集めた実例について	A	コーソラとココナツの分析は面白かった。
A	テーマ設定について	A	論の展開や説得力など気づいたこと（記述式） 本日の歌詞の中から指示語を選び、その曲の伝えたことを考察しているのが面白いと感じた。特定しない、聞き手が耳をたたくの感じがいいと思った。
	参考文献について	A	
	集めた実例について	A	
A	テーマ設定について	A	論の展開や説得力など気づいたこと（記述式） 自分で歌詞の中から例を探し、分析し、本も参考に内容を深掘り、という展開がすごく良かった。音がわかる歌詞と例にどういって、実例度も良かった。
	参考文献について	A	
	集めた実例について	A	

レポート作成者のふりかえり  
工夫したところ・うまくできなかったところなど（必要なら裏へ）  
自分の好きなアーティストも、今学んでいることと関連づけて考えるレポートはとても面白かった。また、反省点として、参考文献をうまく使うことができなかったと感じた。自分が文献を読んで感じたことを、もっと詳しく文章にすることができた気がするので、これから活かしていきたい。

図3 レポート相互評価の例

### 3.6 担当者のふりかえり

この授業ではっきり覚えていることは、まず、「追加登録」という琉球大学独自のしくみがわからず、大量の追加登録を許可してしまい、教室の変更を行うことになり、また、毎回大量の提出物のチェックに追われたことである。

さらに、着任直後で、まだ本学の学生のレディネスやニーズなども十分に理解できていなかったことも反省点である。

#### 4 おわりに

個人的に、授業方法を工夫することについては抵抗があまりない。これは、かつて10年以上大阪府立高校の教諭（国語科）だったこと、退職後大学院に入り、言語学の研究者になってから、阪大の留学生センターで専任として日本語教育に従事したこと、前任校（文学部所属）では国語科教育法を担当しており、「教え方を教えていた」ことなどが背景にあるのではないかと自己分析している。

今回、このように授業実践について、一度客観的に観察し、まとめる機会をいただいたことは、今後の授業計画のうえで、大きな財産になると思う。

コロナ禍で、これまでの授業のやり方がまったく使えないという状況ではあるが、ICTへの対応も含め、逃げることなく、さまざまな授業方法にチャレンジをしていきたい。